

令和5年度（2023年度）版
環境基本計画年次報告書

～東海市の環境の現状と施策の展開～



東 海 市

令和6年（2024年）1月

目 次

成果指標の評価

1	重点プロジェクト「環境教育」の実施状況	1
2	成果指標評価表	
柱1	環境教育	
・ 分野1	環境教育	2
柱2	環境対策	
・ 分野2	大気・ばいじん	4
・ 分野3	悪臭・騒音	5
・ 分野4	水質	6
柱3	環境保全・再生・創造	
・ 分野5	地球温暖化対策	8
・ 分野6	環境美化	9
・ 分野7	緑・水・生き物	11
柱4	循環型社会	
・ 分野8	3R活動	13
・ 分野9	適正排出・処分	15

参考資料

1	環境基本計画の概要	17
2	環境の柱ごとの基本的な施策	19
3	成果指標の算出方法	21
4	成果指標一覧表	23
5	計画推進の検討過程	25
6	環境基本計画推進委員会委員名簿	26

成果指標の評価

1. 重点プロジェクト「環境教育」の実施状況

(1) エコスクール

エコスクールは、新型コロナウイルス感染症等の影響により、令和3年度（2021年度）に引き続き一部講座の中止及び定員制限は行ったものの、感染症対策を徹底し開催に取り組んだ結果、実施講座は29講座（対前年度6講座増）となり、参加者数も946人（対前年度195人増）となりました。

地球温暖化対策の啓発推進のため、企業と協働して、「電気自動車のモデルカーを使用した実験講座」や「ソーラーライトを使用した学習講座」を新規実施したところ、多数の申込をいただき、実施後のアンケートも高い満足度となりました。

(2) 環境イベントによるきっかけづくりと仲間づくり

東海秋まつりにおいて環境ひろばを開催し、王滝村のヒノキ、市内で採取したどんぐり等を使用した自然工作を実施し、当初想定した64人を上回る81人が参加しました。また、自然工作の隣で、動物愛護センターと協力して啓発グッズの配布及び地域ねこ活動の説明を実施し、多くの来場者に対し地域ねこ活動の啓発を行いました。

(3) ふるさと再生を目指して ～いきものの生息空間の保全・再生～

ア 加木屋緑地において、「21世紀の森づくり事業」で市民植樹した在来種の樹木の育成管理に努めている他、オニヤンマ、メダカ、ヘイケボタル、アサギマダラ等の生息環境の確保のため、ビオトープの保全、再生に取り組みました。

イ 生物多様性の保全の観点から、新宝町におけるアルゼンチンアリの駆除を毎月実施するとともに、市に広く分布するオオキンケイギクの駆除に関して、コミュニティを通じての啓発及び広報への記事掲載やパンフレットの配布による啓発に取り組みました。

(4) 生活情報アプリなどによる情報提供

エコスクールの申込は、これまで電話による先着順方式が中心でしたが、WEB申込の仕組みを導入するとともに、エコスクールに係るホームページの内容を整理し検索性の向上や説明内容を充実させました。WEB申込を実施した講座では、定員を上回る応募（電気自動車のモデルカーで実験しよう：2.6倍、電池不要！学んで使えるソーラーライトづくり：1.6倍）があり、参加者の申込に係る情報入手性及び利便性の向上が図られたと考えています。

2 成果指標評価表

基準値はH24数値。目指す方向性の欄は、めざそう値(R5の数値)がある場合はその数値を記載し、めざそう値がない場合は矢印で方向性を示すもの

環境の柱 1 環境教育

環境分野 1	環境教育	環境教育を推進する																						
成果指標 1 エコスクールの参加者数（人）																								
<table border="1"> <caption>エコスクールの参加者数（人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>971</td></tr> <tr><td>H27</td><td>857</td></tr> <tr><td>H28</td><td>1,139</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1,371</td></tr> <tr><td>H30</td><td>891</td></tr> <tr><td>R1</td><td>1,310</td></tr> <tr><td>R2</td><td>600</td></tr> <tr><td>R3</td><td>751</td></tr> <tr><td>R4</td><td>946</td></tr> <tr><td>R5</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>			年度	参加者数	H24	971	H27	857	H28	1,139	H29	1,371	H30	891	R1	1,310	R2	600	R3	751	R4	946	R5	-
年度	参加者数																							
H24	971																							
H27	857																							
H28	1,139																							
H29	1,371																							
H30	891																							
R1	1,310																							
R2	600																							
R3	751																							
R4	946																							
R5	-																							
成果指標の分析		目指す方向性																						
参加者数が基準値から25人少ないものの前年度からは195人増加した。 新型コロナウイルス感染症の影響により引き続き講座の定員制限を行った一方で、感染防止対策を徹底し、秋まつりにて環境ひろばを実施したことや、温暖化対策として電気自動車の講座などの新規講座を実施したことによるものとする。 【参考】実施予定講座数31、実施数29（コロナによる中止0、荒天中止2）		 増やす																						

成果指標 2 生活情報アプリの累計ダウンロード数（件）																								
<table border="1"> <caption>生活情報アプリの累計ダウンロード数（件）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>ダウンロード数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>2,357</td></tr> <tr><td>H29</td><td>4,455</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6,300</td></tr> <tr><td>R1</td><td>8,791</td></tr> <tr><td>R2</td><td>12,130</td></tr> <tr><td>R3</td><td>16,158</td></tr> <tr><td>R4</td><td>19,113</td></tr> <tr><td>R5</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>			年度	ダウンロード数	H24	0	H27	0	H28	2,357	H29	4,455	H30	6,300	R1	8,791	R2	12,130	R3	16,158	R4	19,113	R5	-
年度	ダウンロード数																							
H24	0																							
H27	0																							
H28	2,357																							
H29	4,455																							
H30	6,300																							
R1	8,791																							
R2	12,130																							
R3	16,158																							
R4	19,113																							
R5	-																							
成果指標の分析		目指す方向性																						
累計ダウンロード数は前年度から2,955件増加した。 広報、冊子「ごみと資源の出し方」等に継続して掲載し、PRをしてきたことでダウンロード数が増加したと考える。一方で、月に1回以上アプリを使用するユーザ数や閲覧ページ数は横ばい傾向となっていることから、市民の積極的な活用に繋がっていないと考える。		 増やす																						

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

- ・引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底してエコスクールを実施し、参加者数の増加に努めるとともに、アンケートによる満足度等の把握に努め分析をすることで、ニーズを捉え、より良い講座を開催していく。
- ・エコスクールの申込をWEBから受付できるようにして参加希望者の利便性を向上させるなど、DX（デジタルトランスフォーメーション）を環境学習にも活用していく。
- ・SDGsやゼロカーボンシティなどを含めた環境学習全般について、ホームページや広報等の情報発信媒体を活用し、より一層の啓発を進める。
- ・令和5年度（2023年度）に市域全体の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定を予定していることを踏まえて、地球温暖化に係るエコスクール講座を充実させる。
- ・公園等を活用したエコスクールや、地域清掃の若年層への意識づけとしての学校等への出前授業など、指標の向上に繋がる様々な環境学習を検討していく。

2 令和4年度（2022年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）エコスクール開催補助事業
市内や市外でエコスクールを開催するために、エコスクール実行委員会へ補助を行った。
 - (1) 実施講座数
29講座
 - (2) 参加者数
946人
- （継続）3R活動啓発事業
スマートフォンの普及に伴い、市民生活情報をアプリケーションシステム「東海なび」により発信した（発信情報：イベント情報、ごみに関する情報、避難所情報、公共施設情報等）

【改善点等】

- （新規）WEB申し込みを「電気自動車のモデルカーで実験しよう」及び「電池不要！学んで使えるソーラーライトづくり」で導入し、参加者の利便性の向上を図った。また、以下のとおり定員を大きく上回る応募があった。

【講座別申し込み状況】

- (1) 電気自動車のモデルカーで実験しよう
定員：8組 応募数：21組 倍率：2.6倍
- (2) 電池不要！学んで使えるソーラーライトづくり
定員：10組 応募数：16組 倍率：1.6倍

3 令和4年度（2022年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

指標1（エコスクールの参加者数）について、エコスクールの参加者数が順調に増加しているため、引き続きより多くの市民に参加してもらえるように講座開催数の増加や講座内容の改善に取り組んでほしい。一方で、満足度という点ではリピーターや参加できなかった人へのフォローを行う必要があると思う。満足度を上げることが、講座開催者のスキルアップにも繋がると思う。また、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定したため、地球温暖化対策に関する講座を増やしていくとよい。

エコスクールの様子を紹介方法について、現在ホームページに写真を掲載して行っているが、動画等別の方法も検討してはどうか。

指標2（生活情報アプリの累計ダウンロード数）について、アプリは意識しないと使用しないため、LINEやツイッターで積極的な情報発信をすることは良いと考える。

4 令和5年度（2023年度）以降の取組み方針

- ・エコスクールをWEB申し込みとした影響を分析し、落選者へのフォローアップを含め、多くの市民に参加してもらえる講座を開催していく。
- ・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定しているため、地球温暖化対策に係るエコスクールを充実させる。
- ・エコスクールの様子を周知を、写真だけではなくPR動画を作成するなど、多くの市民に興味を持ってもらえる方法を検討する。

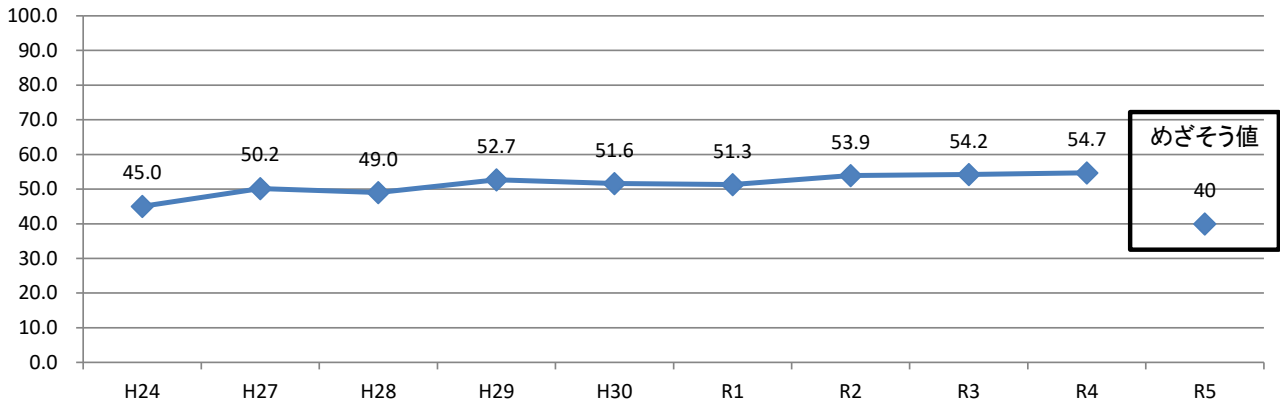
環境の柱 2 環境対策

環境分野 2

大気・ばいじん

きれいな空気を守る

成果指標3 大気汚染などにより、日常生活に支障があると
感じている人の割合(%)



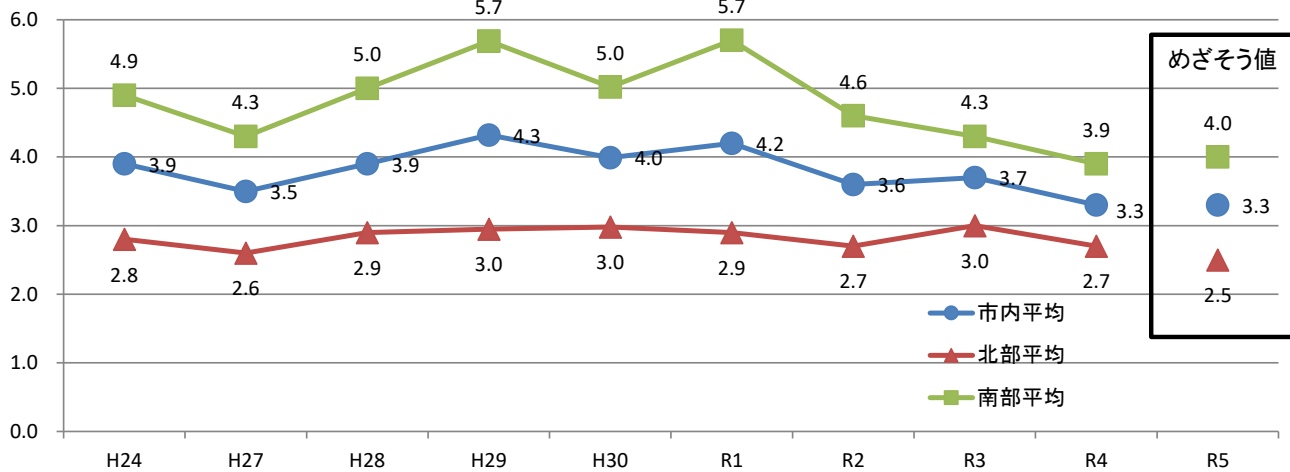
成果指標の分析

基準値と比べ9.7ポイント悪化しており、順調でない。「降下ばいじんの量」はめざそう値を達成した一方で、本指標が悪化し続けていることから、大気汚染や降下ばいじんに対して市民の実感に結びついていないと考える。市民アンケートでは、前年度同様に、30歳から64歳の世代や市南西部地区の割合が高くなっている。

目指す方向性

40%

成果指標4 降下ばいじんの量 (t/km²・月)



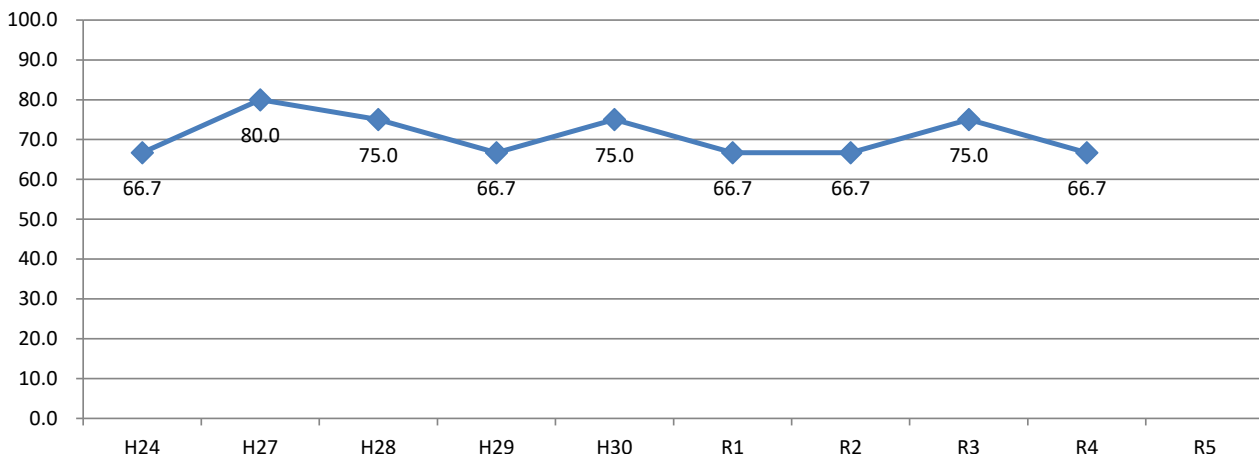
成果指標の分析

市内、北部、南部ともに基準値より改善しており、市内及び南部はめざそう値を達成した。臨海部企業の対策に一定の効果が表れていると考えるが、鉄鋼3社の生産量の変動や気象条件の影響も考えられる。また、例年と比べると差は少なくなっているものの南部は北部に比べて数値が高い状況が継続している。

目指す方向性

3.3t/km²・月(市内)
2.5t/km²・月(北部)
4.0t/km²・月(南部)

成果指標5 環境騒音基準値の適合率(%)



成果指標の分析

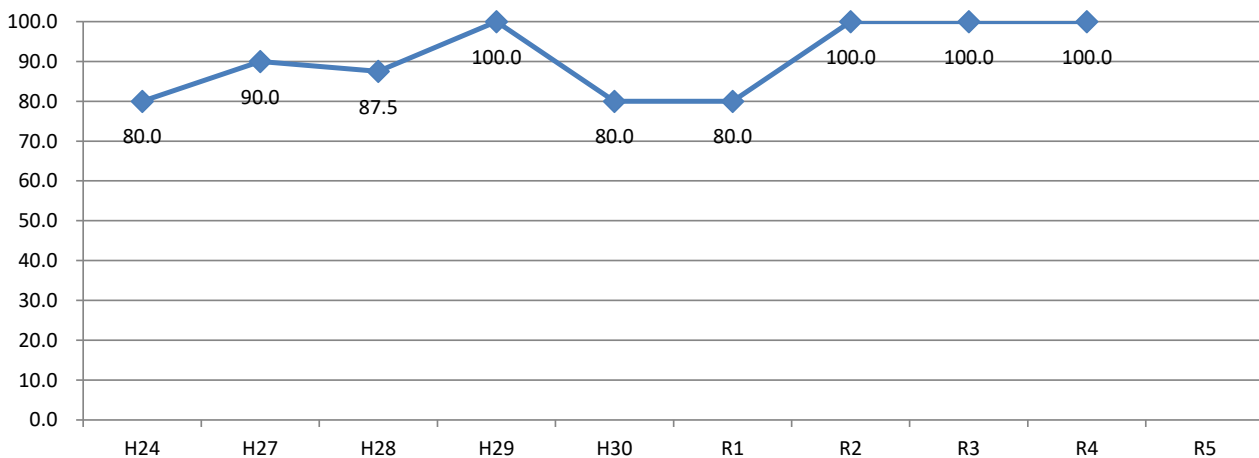
前年値より8.3ポイント減少しているが基準値と同じ値であり、横ばい傾向と考える。
 例年と同様に、昼間時間帯（6-22時）に比べて基準値が厳しい夜間時間帯（22-6時）の適合率が低い。なお、年度内において市民からの環境騒音に係る目立った苦情はない。

目指す方向性



増やす

成果指標6 自動車交通騒音基準値の適合率(%)



成果指標の分析

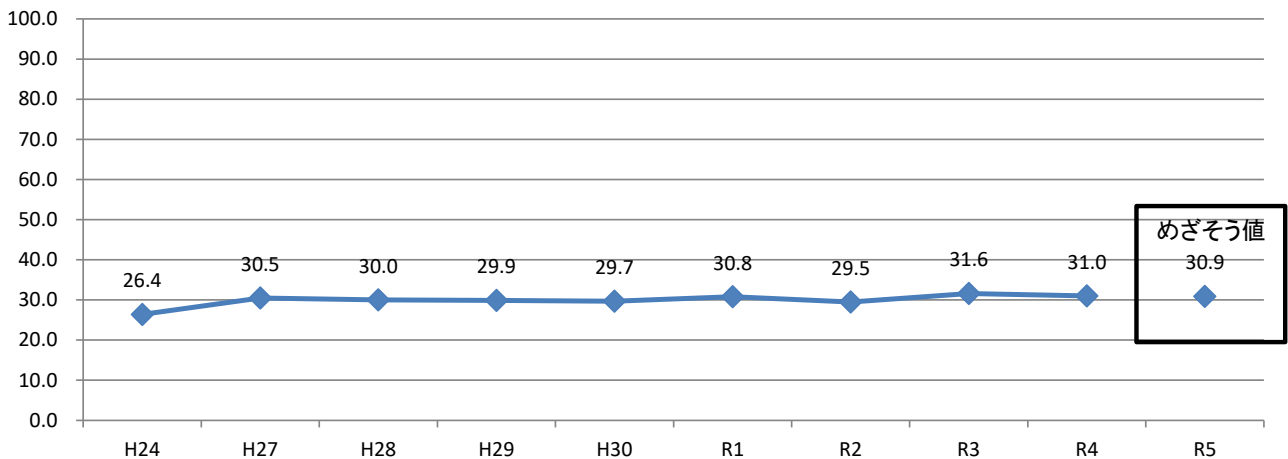
基準値から20ポイント向上しており、前年度に引き続き全地点で適合している。毎年度80%から100%の間で増減を繰り返しているが、順調に推移していると考え。なお、年度内において市民からの道路騒音に係る目立った苦情はない。

目指す方向性



増やす

成果指標7 市内の川の水がきれいであると感じている人の割合(%)



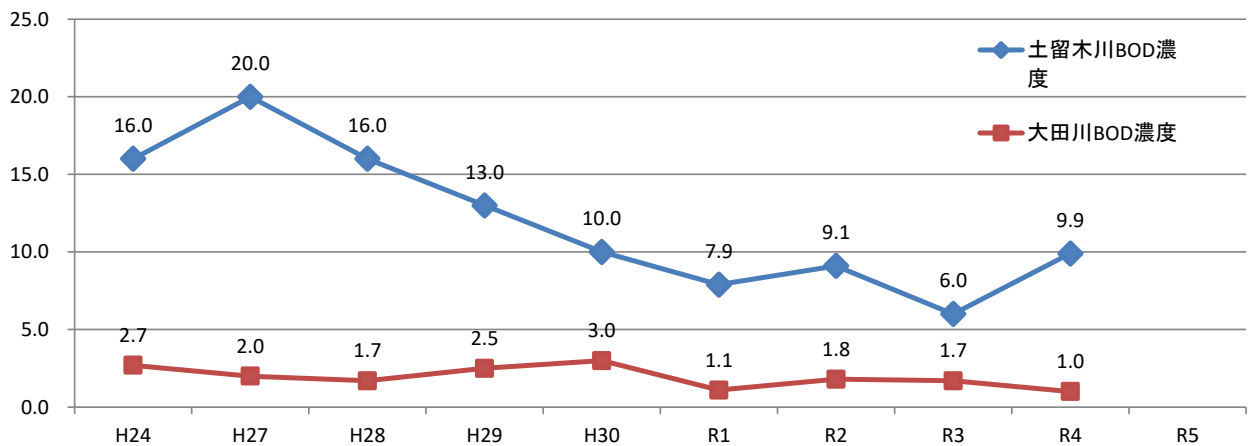
成果指標の分析

基準値と比べ4.6ポイント増加し、めざそう値を超えているが、近年は横ばい傾向が続いている。年齢別では、65歳以上の割合が高く、昔と比較すると川の水が大幅にきれいになっていると考える。学区別では渡内、船島、加木屋南の割合が高い一方で、緑陽、明倫、大田の割合が低い。

目指す方向性

30.9%

成果指標8・9 河川のBOD濃度(mg/l)



成果指標の分析

土留木川は、基準値と比べ6.1ポイント改善しているが、前年度と比較して3.9ポイント悪化した。BOD濃度は採取状況や気象条件などの影響を受けるため、今後の推移を注視する必要があるが、長期的には下水道接続率の向上により改善傾向にあると考える。
大田川は、基準値と比べ1.7ポイント改善しており、下水道整備が充分に進んでいることから、低い数値で推移していると考えられる。

目指す方向性

減らす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

- ・市から事業所に対し、事業所から市民への降下ばいじん対策のより一層の広報について働きかける。
- ・これまでの降下ばいじん対策を継続しつつ、愛知県を含む行政機関、事業者及び市民と情報共有を深め、より効果的な対策について検討を進めていく。
- ・市は、広報やホームページを活用し、環境データの積極的な市民周知を行うとともに、市民にわかりやすい情報発信の工夫をしていく。
- ・河川の水質改善状況が市民に伝わるようなイベントや環境学習を検討する。
- ・引き続き悪臭、騒音の監視に努め、苦情があった場合には早期に対応することで、より良い生活環境を守っていく。

2 令和4年度（2022年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）大気分析事業
大気汚染自動測定器による大気環境測定及び降下ばいじん等の個別の項目における測定を実施した。環境基準のある項目については、光化学オキシダントを除き適合した。なお、光化学オキシダントは愛知県の全測定局において基準値未達成となっている。
- （継続）騒音測定事業
市民に住みよい環境を保全するため、騒音測定をした
・環境騒音測定 6地点 基準値適合率 66.7%
・自動車騒音測定 5地点 要請限度適合率 100%
・夜間工場騒音測定 7事業所 全事業所において協定値適合
- （継続）水質分析事業
住みやすい環境を維持するため、河川、ため池、事業所の水質を分析した
・分析内容 河川(8地点)、ため池(16地点)、工場排水(15地点)の水質分析

【改善点等】

- （変更）広報とうかいにおいて、東海市の大気測定結果に関するページについて拡充を図り、降下ばいじん削減に向けた取り組み内容を新たに記事とし、令和4年度は日本製鉄が整備した1・2焼結炉環境集塵機の概要を紹介した。また、ホームページにおいても、降下ばいじん対策のページを作成するとともに、鉄鋼3社の対策に係る写真を追加するなど、分かりやすさの向上を図った。また、鉄鋼3社、県及び市で構成される降下ばいじん検討会において、市から鉄鋼3社に対して降下ばいじん対策の積極的な情報公開を要請した。

3 令和4年度（2022年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

降下ばいじんについて、市内事業所は削減対策を行っており、数値は下がっているが、日常生活に何らかの支障があることから実感に繋がっていないため、引き続き降下ばいじん対策の広報を継続することが重要と考える。また、小学生に対し出前講座だけではなく校外学習で工場見学して子供たちが自分の目で確かめる機会があるとよい。

指標6（自動車交通騒音基準値の適合率）について現在は問題ないが、今後の駅西の開発により物流関係でトラックの走行量が増えるなどした場合に、問題が出る可能性はあると考える。

河川について、引っ越してきた人やきれいな川を見てきた人からすると、川底にごみが落ちていたりすると汚いと感じると考えられるため、引き続き水質の監視を行うとともに、河川に関するエコスクールの実施により、水のきれいさを知ってもらうようにするとよい。

4 令和5年度（2023年度）以降の取組み方針

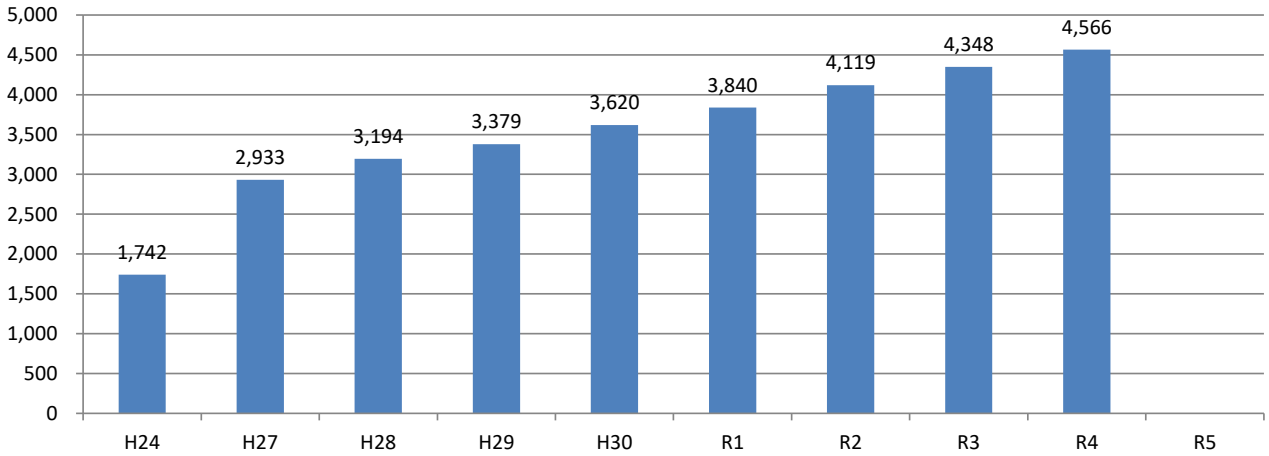
- ・市と事業所が協力し、事業所の降下ばいじん対策について市民が実感できる方法等を検討する。また、広報とうかいや市ホームページを活用した、降下ばいじんに係る情報発信を積極的に行う。
- ・引き続き河川の水質改善状況が市民に伝わるようなイベントや環境学習の実施を検討する。

環境分野 5

地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

成果指標10 太陽光発電システムの累計設置件数(件)



成果指標の分析

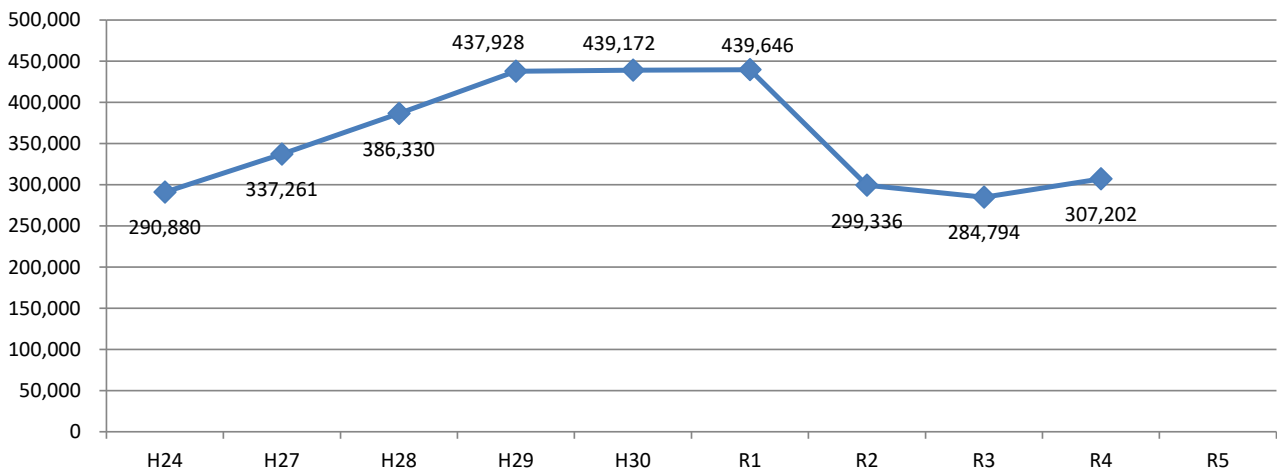
累計設置件数は、基準値より2,824件、前年度から218件増加したものの、前年度からの増加件数は過去5年で最も少なかったため横ばいとする。
電気料金の値上がりが続き、再生可能エネルギーの導入に対する関心は高まっていると考えられるが、FIT制度(固定価格買取制度)による買取価格が低下していること、及び大規模な宅地開発がなかったため増加件数が減少したと考えられる。

目指す方向性



増やす

成果指標11 らんらんバスの年間利用者(人/年)



成果指標の分析

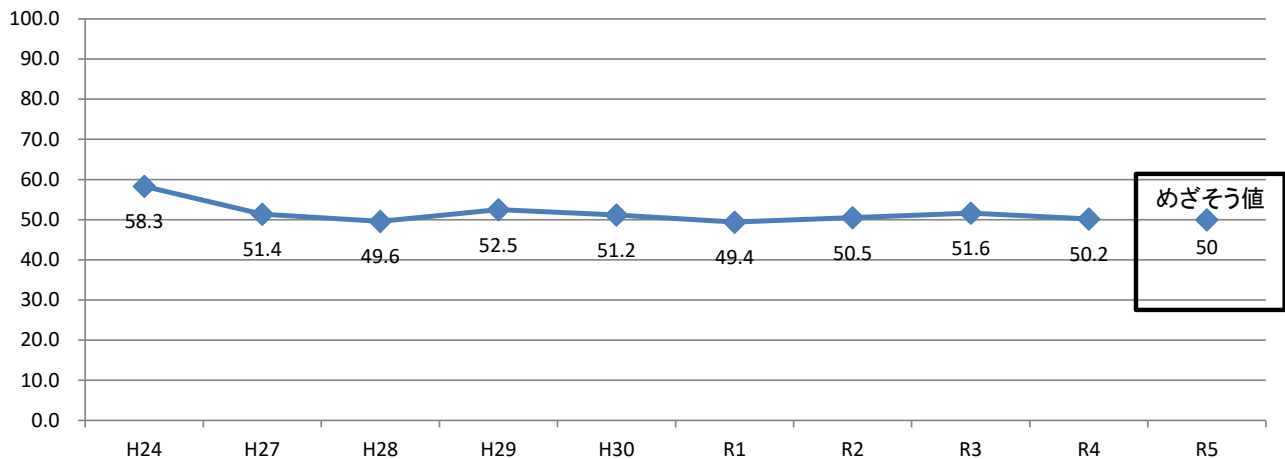
基準値より16,322人増加しているが、元年度と比べると132,444人減少している。新型コロナウイルス感染症の影響が減少する中で、鉄道等も含めた公共交通機関全体で利用者が回復傾向にあるが、コロナ禍前の水準には経済活動が循環していないことやテレワークの進展など社会環境の変化が原因と考えられる。

目指す方向性



増やす

成果指標12 地域内にポイ捨てが目立つと感じる市民の割合(%)



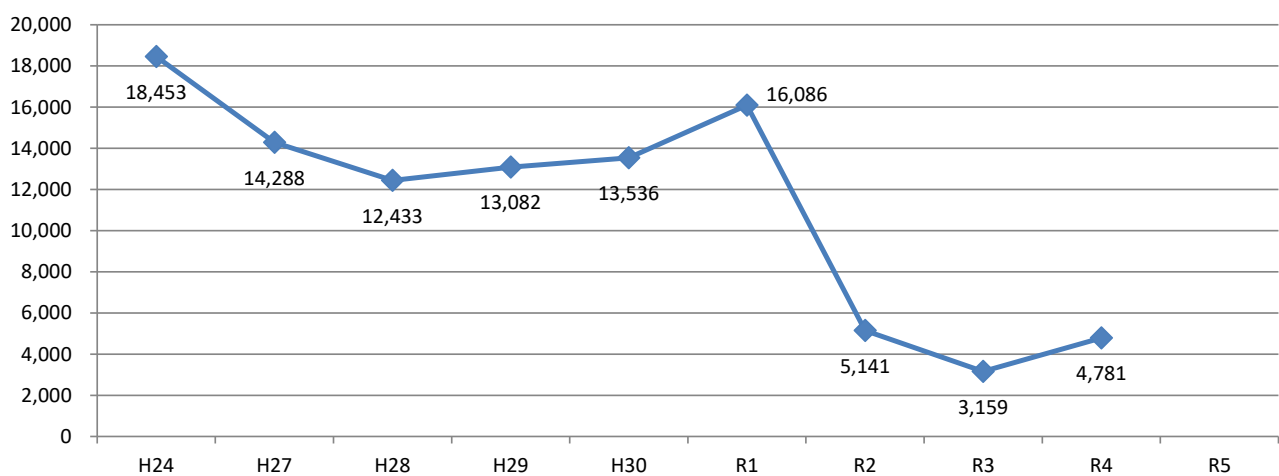
成果指標の分析

基準値から8.1ポイント改善しているが、平成27年度からは横ばい傾向が続いている。市の地域美化推進事業における道路等のゴミの回収量は減少傾向にあり、市内のポイ捨てゴミは減少していると考えられるが、年齢別で10歳代から20歳代の割合が高くなっていることなど、ポイ捨てなど環境への環境への関心が高くなっていることが、割合の減少に繋がっていない原因と考える。

目指す方向性

減らす

成果指標13 地域の清掃活動に参加した人数(人)



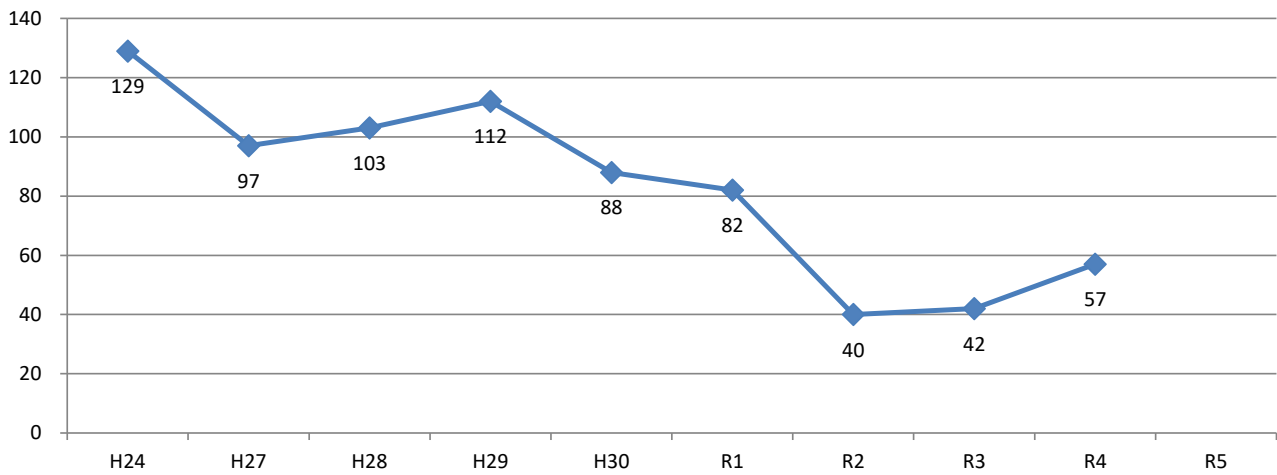
成果指標の分析

基準値と比べ13,672人減少したが、前年度からは1,622人増加した。新型コロナウイルス感染症の影響が減少する中で、コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動が徐々に再開する傾向にあるが、コロナ禍前の水準には戻っておらず、事業所・団体の自主清掃活動等の清掃活動も同様の傾向となっている。
(参考) コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動参加人数 元年度4,666人→4年度1,558人

目指す方向性

増やす

成果指標 1 4 地域の清掃活動に参加した団体数（団体）



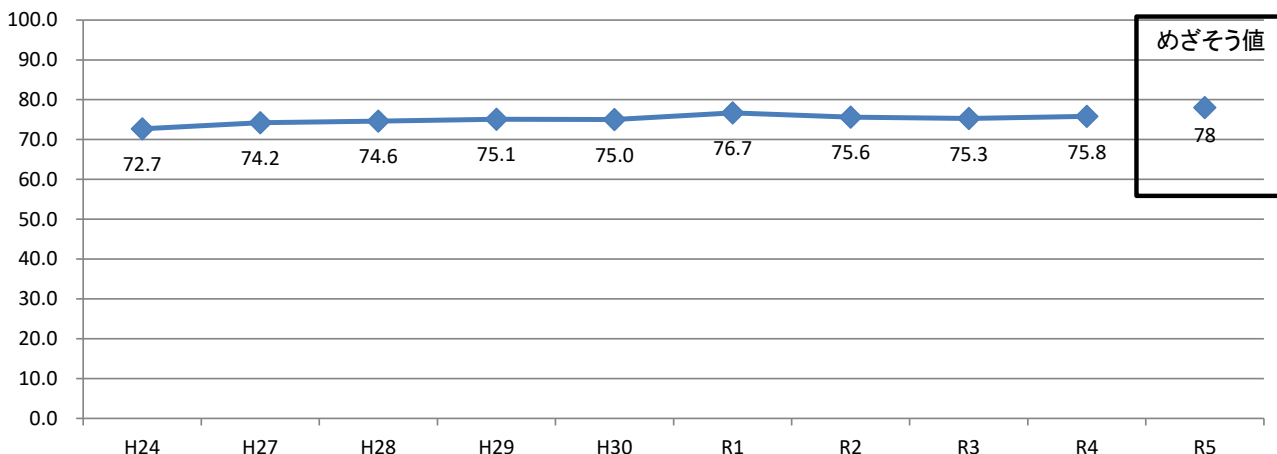
成果指標の分析

基準値と比べ72団体減少したが、前年度からは15団体増加した。
 新型コロナウイルス感染症の影響が減少する中で、コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動が徐々に再開する傾向にあるが、コロナ禍前の水準には戻っておらず、事業所・団体の自主清掃活動等の清掃活動も同様の傾向となっている。
 （参考）コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動参加団体数 元年度14団体→4年度9団体

目指す方向性



成果指標15 花や緑が充実していると思う人の割合(%)



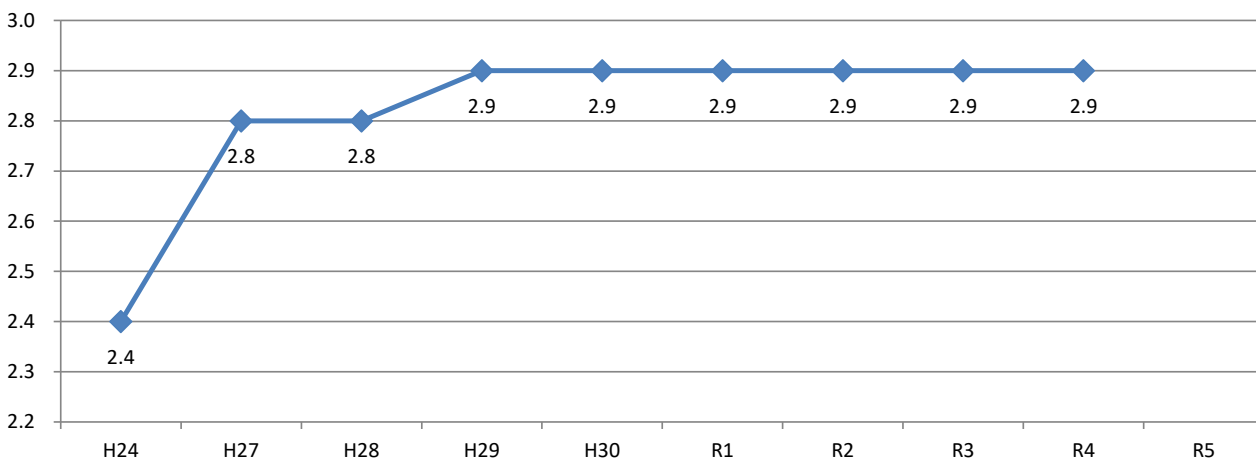
成果指標の分析

基準値と比べ3.1ポイント増加しているが、近年は横ばい傾向である。
公園緑地整備及び花と緑のまちづくりの推進と、適切な維持管理を実施しているものの、コロナ禍によって花のまちづくり運動等の活動が縮小となったことが要因であると考えられる。

目指す方向性

78%

成果指標16 東海市の面積に対する都市公園面積の割合(%)



成果指標の分析

基準値と比べ0.5ポイント増加しているが、前年度と同数値であり、近年は横ばい傾向である。
都市公園は計画的に整備を進めているが、近年は都市公園の供用開始に至っていないため、横ばいとなっている。

目指す方向性



増やす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

- ・ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、市として地球温暖化対策の計画策定を進めるとともに、計画内容に沿った対策について市民・事業者・市が一体となって推進していく。
- ・コロナ禍が続いた場合でも感染症と共存していくことができるような清掃活動の在り方を検討し、地域美化活動を推進していく。
- ・花や緑が充実していると思う人が増えるように、ハード面の整備だけでなく、自然環境を守り育てていく気持ちを育む取組みをより一層充実させる。

2 令和4年度（2022年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）住宅用地球温暖化対策設備導入促進補助事業
再生可能エネルギーの利用の促進のため、住宅用太陽光発電システム、HEMS、定置用リチウムイオン蓄電システム、家庭用燃料電池システム、電気自動車等充給電設備及び高性能外皮の設置に対して補助をした。
 - ・補助実績 HEMS15件、家庭用燃料電池システム27件、蓄電池61件、電気自動車等充給電設備1件、太陽光発電施設との一体的導入33件
- （継続）地域美化推進事業
ごみのないまちづくりを目指すため、不法投棄監視パトロール、不法投棄ごみの回収、道路等公共施設の清掃等を実施した。
 - ・不法投棄監視パトロールによるごみの回収量 6,900kg
- （継続）自然環境再生事業
『ふるさとの自然』を保全・再生し、ホタル、アサギマダラ等の身近な生き物とふれあい、自然環境を守り育てていくことの大切さを学ぶイベントを開催した。
 - ・場所 加木屋緑地
 - ・内容 ビオトープづくり及び植栽会(4回)
 - ・参加者数 111人(4回)

【その他】

地球温暖化対策として、令和5年(2023年)10月(予定)の策定を目指して、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)※2の検討を実施した。
※2 市民及び事業者における温室効果ガス排出量削減に係る計画
また、地球温暖化対策啓発グッズ(うちわ、コットンバッグ等)、啓発チラシを作成し、市内イベント等で配布した。

3 令和4年度（2022年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

指標10について、太陽光発電の設置件数が増えていることは一つの成果だと思うが、設置から年数が経過し耐用年数が近づいていることで、廃棄物が増えることも考えられるため、不法投棄に繋がらないような対策を検討する必要があると思う。
指標11について、利用者の年齢層の分析しているのであれば、通院や通所利用等のニーズに応えられる運行ルートや便数を検討してはどうか。
指標12について、意識醸成が着実に進んでいるが、成果を評価するためには回収量など客観的な数値を指標とするほうが良いと思う。
地域の清掃活動について、意識醸成が進んでいること及びコロナの収束により、数値が回復していくことを期待している。
指標15及び16について、どちらも横ばい傾向が続いており、現状のままでは数値の増加は難しいので、農地を緑に加えることを検討してはどうか。

4 令和5年度（2023年度）以降の取組方針

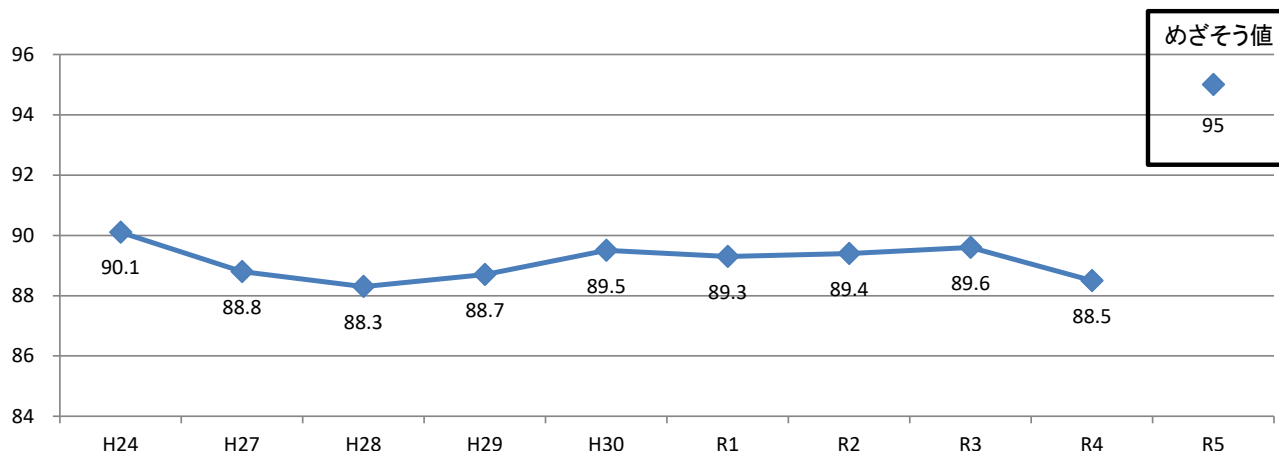
- ・地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の推進については、市民・事業者・行政が一体となって取り組むことが重要であることから、まずは市が積極的に啓発を進める。
- ・環境美化について意識醸成が進んでいることを踏まえ、今後は地域の清掃活動に参加する市民及び団体数が増加するような方策を検討し、地域美化活動を推進していく。

環境分野 8

3 R活動

ごみ減量と資源化を推進する

成果指標17 ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合(%)



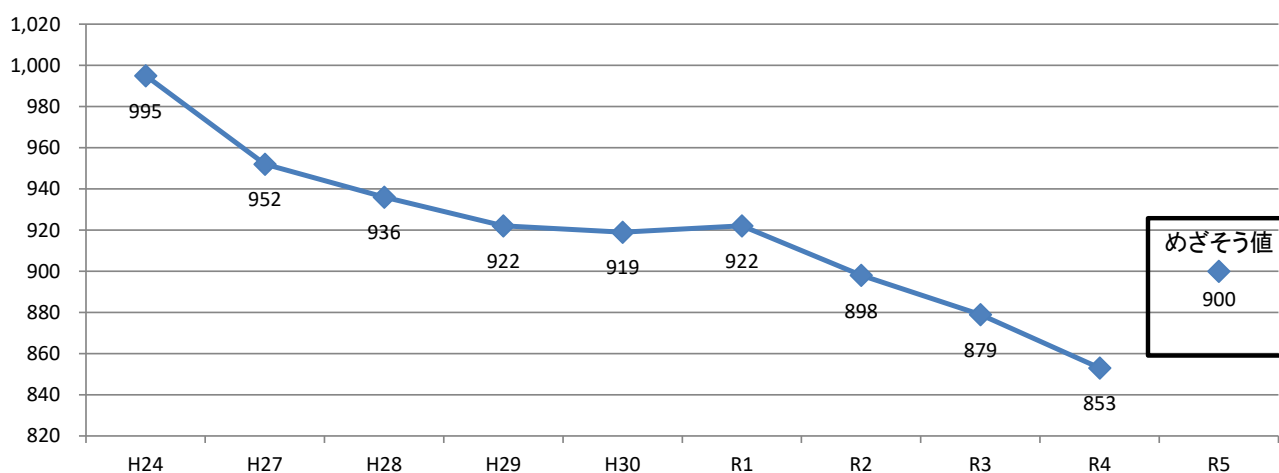
成果指標の分析

基準値と比べ1.6ポイント悪化しているが、高い割合を継続的に維持しており、近隣市町と比較すると良好な数値である。
年齢別では若い層が低く、また、職業別では学生と会社員・公務員が低くなっており、この状態は基準年度以降続いている。

目指す方向性

95%

成果指標18 市民一人当たりのごみの総量(g/人・日)



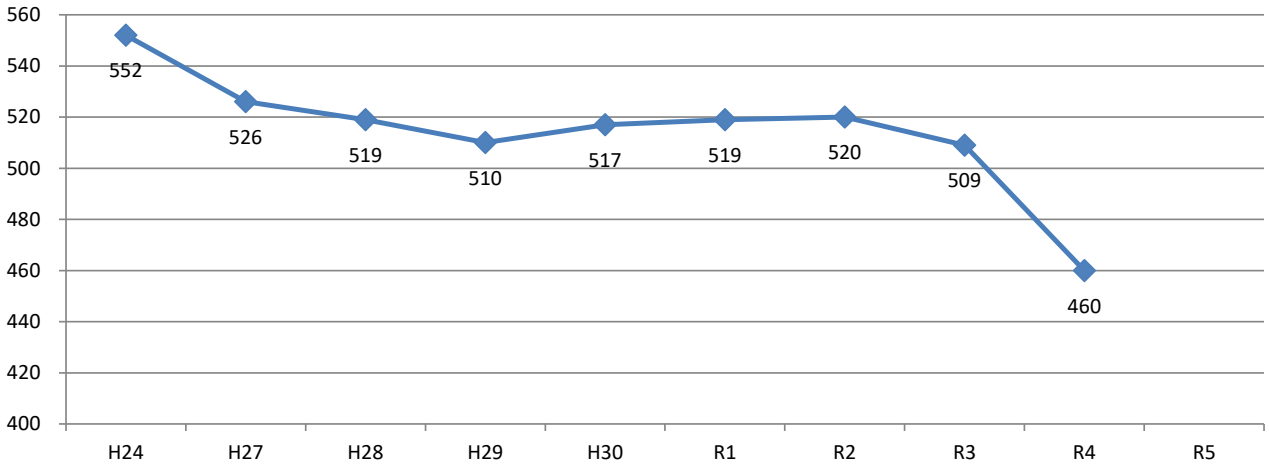
成果指標の分析

一人1日当たりのごみの総量は減少傾向であり、基準値と比べて142g/人・日減少し、目指す方向性で示された900g/人・日を下回っている。
物価の高騰により物品の更新機会が減っていることや、リユース市場の拡大により中古品を売買する人が増えていることが要因と考えられる。

目指す方向性

900g/人・日

成果指標19 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量(g/人・日)



成果指標の分析

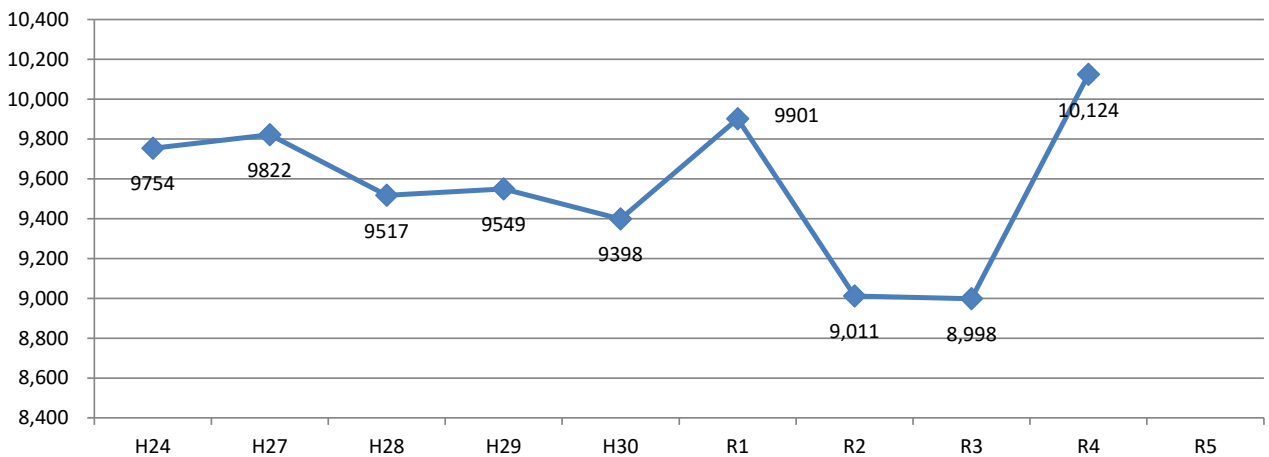
基準値と比べ92g/人・日の改善、また、前年度と比べ49g/人・日の改善となっている。
 物価の高騰により物品の更新機会が減っていることや、リユース市場の拡大により中古品を売買する人が増えている。また、令和3年度までは公共施設から排出されたごみを家庭系ごみとしていたが、西知多クリーンセンターへの移行に先立ち、令和4年度より公共回収を開始し、事業系ごみとしたことが要因と考えられる。なお、従前の分析方法の場合は498g/人・日で、基準値と比べ54g/人・日の改善、また、前年度と比べ11g/人・日の改善となる。

目指す方向性



減らす

成果指標20 事業系ごみの総排出量(t)



成果指標の分析

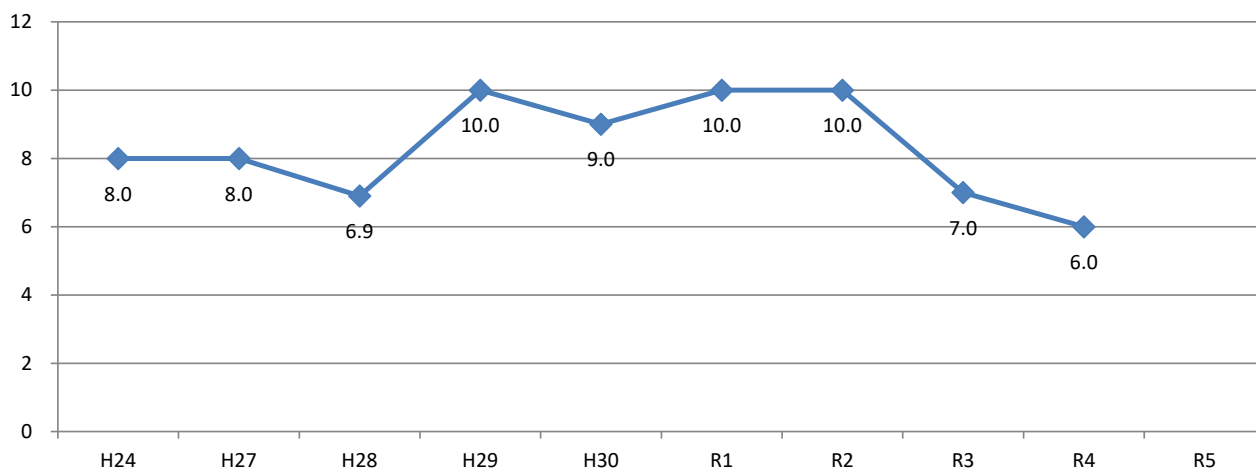
事業系ごみの総排出量は基準値に比べ370t増加、また、前年度に比べ1,126t増加した。
 令和3年度までは公共施設から排出されたごみを家庭系ごみとしていたが、令和4年度より公共回収を開始し、事業系ごみとしたことが要因と考えられる。
 なお、従前の分析方法の場合は8,531tで、基準値に比べ1,223t減少、また、前年度に比べ467t減少する。

目指す方向性



減らす

成果指標21 プラスチック製容器包装の不適合物(%)



成果指標の分析

目指す方向性

基準値と比べ2ポイント改善した。
 令和4年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法に伴い、プラスチック製容器包装の資源化の推進を促したこと、また、市民の分別意識が向上し、排出する段階で不適合物の除去がされていたことが要因と考えられる。



減らす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

- ・取組等が幅広い世代に伝わるよう、生活情報アプリを始めとした市の情報発信媒体を活用した啓発活動を継続する。また、市民一人当たりのごみの総量の目標を達成したことのPR及び更なるごみの減量及び資源化の取組が推進されるような効果的な情報発信方法について検討する。
- ・「プラスチック資源循環促進法」が施行されたため、プラスチックごみの削減及び資源化を促すとともに、排出段階でペットボトル等の不適合物を除去するよう啓発する。

2 令和4年度（2022年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）3R活動講座等運営事業
東海市エコスクール関連講座「サステイナブル☆キッズフェスタ2023」及び「3Rで住まいを整える～エコで得する！お片付けセミナー～【実践編】」を開催した。
 - (1) サステイナブル☆キッズフェスタ2023
 - ・開催日 R4(2022). 8. 20
 - ・内容 不用品を活用した工作・雑貨製作体験及び3R活動講座
 - ・参加者数 31名
 - (2) 3Rで住まいを整える～エコで得する！お片付けセミナー～【実践編】
 - ・開催日 R4(2022). 7. 16
 - ・内容 3Rを活用し、実践に役立つ収納術等を学ぶ講座
 - ・参加者数 21名
- （継続）資源集団回収事業
ごみの減量と再資源化を推進するため、町内会・自治会・子ども会等が行った資源の集団回収を支援した。
 - ・団体数 106団体 ※R4(2022). 4. 1時点
 - ・回収品目 紙類、缶類、びん類、布類
 - ・回収量 1, 946 t

【改善点等】

令和3年度に好評であった「3Rで住まいを整える～お片付けセミナー～」の継続として実践編の内容を紹介し、3Rを意識した片付けができる講座を開始した。令和5年度は、家の中にモノを入れない、リデュースをメインとした仕組みづくりを学べるセミナーを開催する。

3 令和4年度（2022年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

指標17（ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合）は、近隣市町と比較して高い数値を維持しており、このような状況の中で、今後どのような施策がごみの減量に効果的か考える必要がある。また、児童向けに環境学習を実施し、昨今の廃棄物問題を教える必要がある。指標18（市民一人当たりのごみの総量）、19（市民一人当たりの家庭系ごみの排出量）及び20（事業系ごみの総排出量）は、コロナ禍の影響もありごみの排出量が減少しているが、コロナウイルスが収束したことで、今後のごみの排出量の増減を注視する必要がある。

4 令和5年度（2023年度）以降の取組み方針

- ・若年層を対象にごみ減量、リサイクルの意識付けを促すため、市公式SNSを活用した啓発活動を実施する。また、児童を対象とした環境学習を充実させる。
- ・コロナウイルスが第5類に引き下げられましたので、一般廃棄物収集運搬許可業者の搬入ごみの展開検査の再開や、各家庭から排出される廃プラスチックの資源化を促し、ごみの排出量の削減に努める。

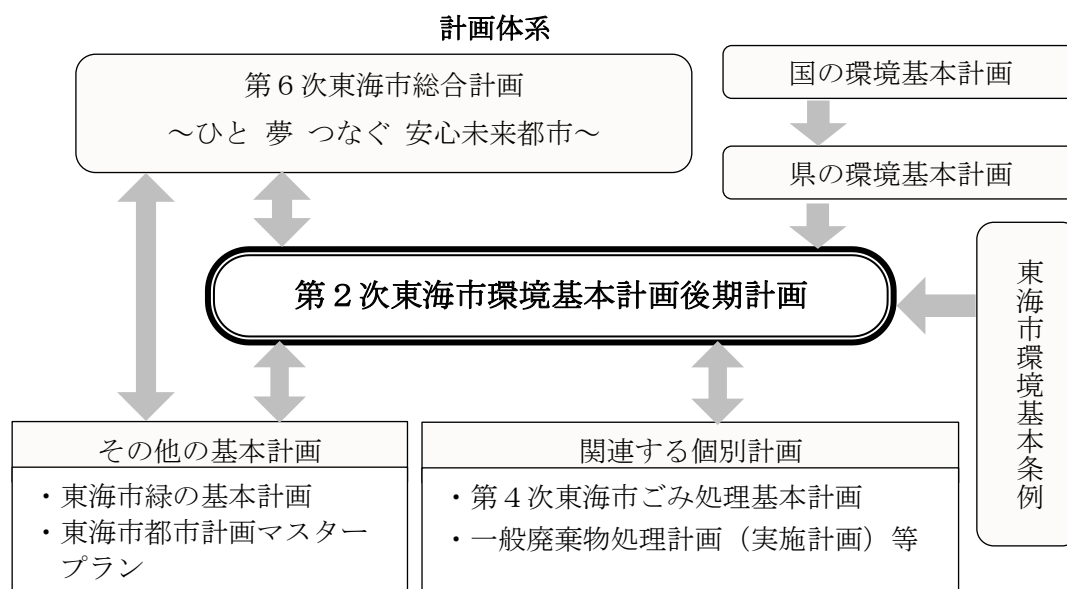
参考資料

1. 環境基本計画の概要

(1).計画の推移及び体系

本市では、平成17年(2005年)に「東海市環境基本条例」を制定し、この条例に基づいて、平成19年度(2007年度)に「東海市環境基本計画」を策定しました。本市は、この計画にビジョンとして掲げた「未来につなぐ 美しいふるさと東海」を実現するため、市民、事業者、地域・団体、行政の協働を推進し、さまざまな環境施策を推進してきました。

平成28年度(2016年度)には、本市を取り巻く課題や社会環境の変化に対応するとともに、環境行政の適切な運用に役立てるため、「第2次東海市環境基本計画」を策定し、さらに、令和元年度(2019年度)には、平成30年度(2018年度)に上位計画である第6次東海市総合計画後期計画が策定されたことを受けて、「第2次東海市環境基本計画後期計画」を策定しました。



(2).計画の期間

上位計画である第6次東海市総合計画の施策や指標との整合性を図るため、次のとおりの期間としています。



(3).計画の推進主体

本計画の推進主体は、市民、事業者、地域・団体、行政です。それぞれの立場でそれぞれの役割を担い、相互に連携を図りながら、積極的に行動することが必要です。

(4).計画のビジョン

本市では、公園や緑地の整備による美しいまちづくりや、下水道整備による河川等の浄化、気軽に健康づくりのできる環境の提供など、市民生活を取り巻く環境の改善に向けた取り組みを行ってきましたが、近年は、地球規模で進む温暖化や、生物多様性に対する環境問題等への関心が高まってきています。

第2次東海市環境基本計画では、東海市環境基本計画のビジョンである「未来につながる美しいふるさと東海」の将来都市像を継承し、環境に配慮したまちづくりと持続可能な循環型社会の実現を目指して、美しいふるさとの東海市を未来に届けていきます。

<ビジョン>

未来につながる 美しいふるさと東海

快適な市民生活の再生と創造が進み、多くのひとが環境に配慮した行動を行うことや、身近な場所での生き物とのふれあいを通じて感動が生まれています。

そして、さまざまな世代のひとが健康に暮らしている「美しいふるさと東海市」に愛着を持ち、子どもたちがふるさとに誇りを持って生活している未来へとつなげています。

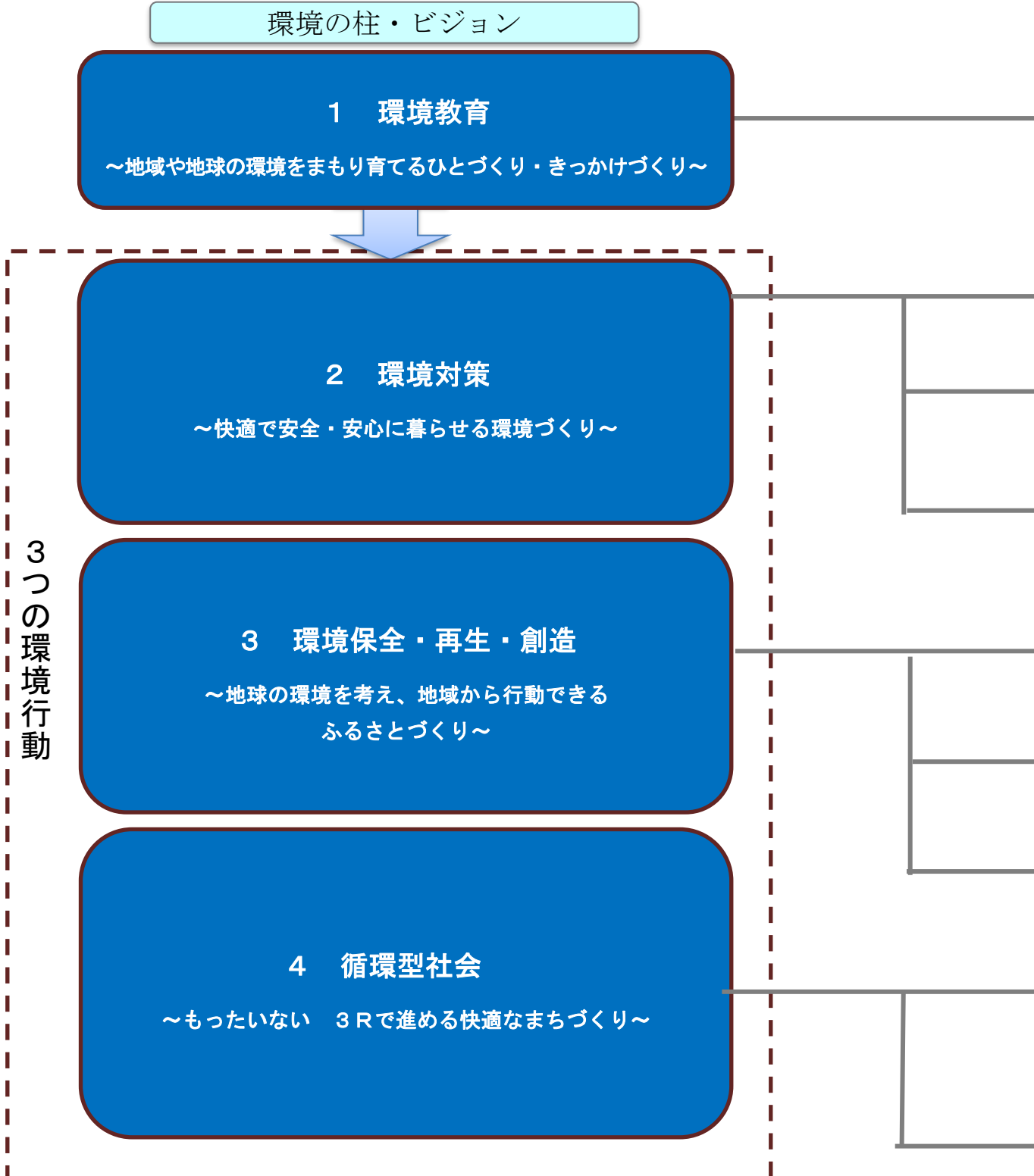
<めざすふるさとの姿>

- 多くの市民が環境にやさしい行動をしています。
- 空気がきれいで、快適に暮らしています。
- 地球温暖化に関心を持つ人が増え、温室効果ガスの排出抑制に努めています。
- 緑（公園・緑地）や水（河川・池）がつながり、生物が身近に生息し、人と自然が共生しています。
- 「もったいない」意識が高まり食品ロスなどが少なく、ごみの分別が徹底され、資源が循環しています。

2. 環境の柱ごとの基本的な施策

1. 体系図

「環境教育」と、「環境対策」、「環境保全・再生・創造」、「循環型社会」の3つの環境行動が連携し、環境ビジョン「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の実現を目指します。



環境分野・基本的な施策

行動計画

★環境教育

環境教育を推進する

環境教育・学習の推進

環境保全活動の担い手づくり

★大気・ばいじん

きれいな空気を守る

大気の調査・監視

公害の防止

★悪臭・騒音

悪臭・騒音の発生を抑える

悪臭対策

騒音対策

★水質

生活排水を適切に管理する

水質の調査・監視

水質環境の改善

★地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

省エネルギーの推進

再生可能エネルギーの活用

低炭素型まちづくり

★環境美化

まちの環境美化を推進する

美化活動の推進

★緑・水・生き物

人と自然が共生できるように環境保全活動を推進する

緑地の保全・持続可能な利用

水環境・水循環の保全・持続可能な利用

生物多様性の保全・持続可能な利用

★3R活動

ごみ減量と資源化を推進する

リデュースの推進

リユースの推進

リサイクルの推進

★適正排出・処分

適正にごみの排出・処分を行う

ごみの適正排出・処分

3. 成果指標の算出方法

成果指標		算出方法
環境の柱1 環境教育		
1	エコスクールの参加者数	1年間のエコスクールの参加者数（事務局、保育園、公募及び関連講座分）
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	1年間の生活情報アプリのダウンロード数
環境の柱2 環境対策		
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
4-1	降下ばいじんの量（市内平均）	市内10箇所ですべて毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/10箇所
4-2	降下ばいじんの量（北部平均）	市内北部地域5箇所（一番畑保育園、名和児童館、名和町吹付、名和東児童館、上野中学校）ですべて毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
4-3	降下ばいじんの量（南部平均）	市内南部地域5箇所（ソラト太田川、文化センター、養父児童館、横須賀中学校、三ツ池保育園）ですべて毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
5	環境騒音基準値の適合率	環境騒音測定地点（市内6箇所）×2区分（昼間・夜間）ですべて12測定値が環境基準に適合している割合
6	自動車交通騒音基準値の適合率	自動車交通騒音測定地点（市内5箇所）×2区分（昼間・夜間）ですべて10測定値が要請限度を超えない割合
7	市内の川の水がきれいであると感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
8	土留木川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（土留木川 竜ノ脇交差点）
9	大田川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（大田川 大宮橋）

成果指標		算出方法
環境の柱3 環境保全・再生・創造		
10	太陽光発電システムの累計設置件数	中部電力株式会社と売買契約を締結している契約数の累計
11	らんらんバスの年間利用者数	1年間のらんらんバスの利用者数
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
13	地域の清掃活動に参加した人数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計人数
14	地域の清掃活動に参加した延べ団体数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計団体数
15	花や緑が充実していると思う人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
環境の柱4 循環型社会		
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	市内の都市公園面積/東海市の面積×100
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
18	市民一人当たりのごみの総量	【1年間のごみ（家庭系・事業系（可燃物＋不燃物））の清掃センターへの総搬入量＋分別収集・資源集団回収・ごみ集積場で回収した1年間の資源回収量＋市で把握している民間で回収した1年間の資源回収量】/年間日数/人口
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	1年間の家庭ごみ（可燃物＋不燃物）の清掃センターへの総搬入量/年間日数/人口
20	事業系ごみの総排出量	1年間の事業系可燃ごみの総重量＋事業系不燃ごみの総重量
21	プラスチック製容器包装の不適合混合率	1年間に回収したプラスチック製容器包装の不適合物の混入割合。 プラスチック製容器包装に含まれる不適合物の総重量/プラスチック製容器包装収集量の総重量

4. 成果指標一覧表

	成 果 指 標	基準値 H24	R4	めざそう値(R5) めざす方向性
1	エコスクールの参加者数	971 人	946 人	↗
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	-	19,113 件	↗
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	45%	54.7%	40%
4-1	降下ばいじんの量(市内平均)	3.9t/km ² ・月	3.3t/km ² ・月	3.3t/km ² ・月
4-2	降下ばいじんの量(北部平均)	2.8t/km ² ・月	2.7t/km ² ・月	2.5t/km ² ・月
4-3	降下ばいじんの量(南部平均)	4.9t/km ² ・月	3.9t/km ² ・月	4.0t/km ² ・月
5	環境騒音基準値の適合率	66.7%	66.7%	↗
6	自動車交通騒音基準値の適合率	80%	100%	↗
7	市内の川の水がきれいであると感じている人の割合	26.4%	31.0%	30.9%
8	土留木川の BOD 濃度	16.0mg/ℓ	9.9mg/ℓ	↘
9	大田川の BOD 濃度	2.6mg/ℓ	1.0mg/ℓ	↘
10	太陽光発電システムの累計設置件数	1,742 件	4,566 件	↗
11	らんらんバスの年間利用者数	290,880 人/年	307,202 人/年	↗
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	58.3%	50.2%	50%
13	地域の清掃活動に参加した人数	18,453 人	4,781 人	↗
14	地域の清掃活動に参加した団体数	129 団体	57 団体	↗

		基準値 H24	R4	めざそう値(R5) めざす方向性
15	花や緑が充実していると思う人の割合	72.7%	75.8%	78%
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	2.4%	2.9%	↗
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	90.1%	88.5%	95%
18	市民一人当たりのごみの総量	995g/人・日	853g/人・日	900g/人・日
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	552g/人・日	460g/人・日 ※	↘
20	事業系ごみの総排出量	9,753 t	10,124 t ※	↘
21	プラスチック製容器包装の不適合物混合率	8.0%	6.0%	↘

※公共施設から排出されたごみについて、令和4年度（2022年度）より家庭系ごみから事業系ごみに分類を変更したことから、従前の分類で算定した場合、19番は498g/人・日、20番は8,531tとなるもの

5. 計画推進の検討過程

- 令和5年（2023年）5月30日 第1回東海市環境基本計画推進委員会
「年次報告書の成果指標の評価について」
- 令和5年（2023年）8月23日 第2回東海市環境基本計画推進委員会
「令和4年度事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価」
「令和5年度以降の取り組み方針について」
- 令和5年（2023年）12月22日 第3回東海市環境基本計画推進委員会
「東海市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進行管理について」
「第3次環境基本計画について」

6. 環境基本計画推進委員会委員名簿

本年次報告書の作成にあたり、検討を行った委員を掲載

令和6年（2024年）1月時点

※（ ）は旧委員

役 職	所属部会	氏 名	区 分
委 員 長	社 会 環 境	山 本 隆 明	事業者を代表する者
副 委 員 長 社会環境部会長	社 会 環 境	寺 島 賀 子	NPO を代表する者
副 委 員 長 生活環境部会長	生 活 環 境	吉 原 雅 哉	事業者を代表する者
副 委 員 長 廃棄物・リサイクル 部会長	廃棄物・リサイクル	榊 原 弘 之 (判 治 圭 祐)	事業者を代表する者
委 員	社 会 環 境	近 藤 高 史	事業者を代表する者
〃	〃	牲 川 順 一	事業者を代表する者
〃	〃	龍 田 昭 一	市内に在住する者
〃	生 活 環 境	南 川 陸 夫	NPO を代表する者
〃	〃	武 富 時 満	NPO を代表する者
〃	〃	吉 鶴 弥 生	市内に在住する者
〃	〃	加 古 博 之	市内に在住する者
〃	廃棄物・リサイクル	早 川 権 慈	NPO を代表する者
〃	〃	毛 利 まり子	NPO を代表する者
〃	〃	田 中 治 幸	市内に在住する者
〃	〃	森 岡 良 枝	市内に在住する者

令和5年度（2023年度）版
環境基本計画年次報告書

●発行

令和6年（2024年）1月

●編集

東海市 環境経済部 生活環境課
清掃センター

東海市環境基本計画推進委員会

●お問い合わせ先

東海市 環境経済部 生活環境課

〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地

TEL 052-603-2211/0562-33-1111

FAX 052-603-6910

URL <http://www.city.tokai.aichi.jp>

E-mail kankyoushou@city.tokai.lg.jp
